



全人工肘関節置換術 (TEA)

関節リウマチの炎症が肘関節におきますと、他の関節と同様に関節の変形や破壊をおこします。症状は疼痛、腫脹、可動域制限です。肘関節の曲がりが悪くなると顔に手がとどかないため、洗顔や食事ができないなどの問題をおこします。肘関節が充分曲がっても肩関節の動きが残存していないと顔に手がとどきませんが、肘関節の曲がり具合は生活上きわめて重要です。

関節リウマチによる肘関節障害がひどい場合は、他の関節と同様に人工肘関節置換術をおこなっております。全人工肘関節置換術(TEA)には、表面置換型 蝶番型の2種類があります。当院では以前から表面置換型の人工肘関節(K-ELBOW)を用いて手術をおこなっています。ただし安定性や骨の欠損がひどい場合や再置換術のときは蝶番型を使用することもあります。

人工肘関節は、伸展が軽度制限されたり小指が痺れたりする尺骨神経障害がおこることがありますが、疼痛の軽減、関節の安定性、可動域の改善にすぐれた治療法です。



術前(7/4左肘側面)



術前(7/4左肘正面)





術後(8/23左肘側面)



術後(8/23左肘正面)